

# 業 績 集

2022年4月～2023年3月

2023年4月～2024年3月

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
先進治療科学専攻感覚器病学講座  
皮膚科学



## 業績集発刊にあたって

### — 最後の業績集 —

鹿児島大学皮膚科学では 2 年に 1 回業績集を発刊してきた。2006 年に教授を拝命して 18 年目の今年、これが私にとって最後の業績集となる。巻頭言を書くのは 9 回目である。過去 8 回分を読み返してみると、その時々思いつくままに様々なことを書き記しているが、毎回勉強して論文を書くことの大切さと楽しさを伝えることで文章を閉じている。その結果を振り返ってみる。

18 年間の成果は以下の通りである（2023 年 12 月末現在）。

和文著書 113 編、和文総説 42 編、和文原著 76 編

英文著書 6 編、英文総説 10 編、英文原著 302 編

常時、関連病院を含めても二十人そこそこの小さな医局である。教室員は大いに頑張ってくれたと思う。感謝したい。

研修医制度が定着して大学で研修する医師が激減した。大学院離れも深刻な状況である。大学での研修、市中病院での研修何れにも一長一短があろう。現行の研修医制度を経験していない私が両者を比較することはできない。ただ 41 年間大学で研究を続けてきた立場で思うところを最後に伝えておきたい。

ATL という疾患がある。1977 年に高月清博士により疾患概念が確立された。ATL は鹿児島県を含む日本列島の西南地域に多いことは周知のとおりである。この疾患患者の約半数は皮膚症状を呈する。このような背景があり 1983 年に皮膚科医としてのキャリアをスタートした私は当時の田代正昭教授から「ATL の研究」を命じられた。意気に感じたのではあるが研究の手段に乏しい。田代教授には ATL 班会議などに参加し発表する機会をいただいた。しかし発表できる研究は統計学的観察やせいぜい皮膚組織の免疫染色程度である。先進的な施設からは腫瘍細胞の増殖機構やウイルスのインテグレーションなど分子生物学のデータが提示される。当時の私には別次元の研究である。このような経験により臨床医であってもこれからは分子生物学の知識と技術が不可欠であると痛感した。

そこで田代教授に懇願して第二生化学教室の村松喬教授の下で学ぶ機会をいただいた。ここでは村松教授の御配慮で新規遺伝子のクローニングのプロジェクトに参加することができた。このことは特定の実験法のみでなく分子生物学の研究法を広く習得することに大いに役立ったと思っている。ここでクローニングした分子がベイシジン/CD147 で、その後皮膚科に帰ってからもベイシジン/CD147 に関する研究を継続している。ベイシジンは癌細胞で発現が亢進しており癌の進展を促進すること、それは癌細胞の解糖系の制御を介することを明らかにした。さらに 2005 年頃から T 細胞の分化・増殖もエネルギーを解糖系に依存することが報告されるようになった。この事実に基づき Th17 細胞への分化が病態形成に重要な免疫疾患である乾癬の発症にも関与していることを解明した。

基礎研究は大学にいたからこそ経験することができた。そして基礎研究を行なったことで皮膚疾患の病態解明という臨床に直結する成果をあげることができた。医局の先生方に伝えたいことは「研究をすることで疾患を見る目が変わる」と言うこ

とである。ATLでも乾癬でも紅斑や結節がありそれにふさわしい薬剤を用いて治療する。これはもちろん正しい医療である。今や生物学的製剤や分子標的薬など薬剤の選択肢は飛躍的に増え今昔の観に堪えない。このような薬剤を用いて治療することに加えて基礎研究の経験があると薬剤が細胞のどこに作用しているかということをも具体的なイメージとして捉えることができる。そのような見方が次なるアイデアを生む。「研究をすることで疾患を見る目が変わる」のである。

ベシジン研究を例にあげたが他にも顆粒球吸着除去療法に関する研究など多くの研究を行ってきた。すべて臨床につながる研究であった。研究と臨床を並行して実施できるのは大学にいたからこそである。大学で研修したのは正しかったと疑ったことはない。臨床で問いを得て研究し成果を論文として発表する。楽しい研究生活であった。

まだまだ医局の仲間と一緒に勉強したい思いは山々であるが、いつまでもそうは行くまい。後進に道を譲るべき時が来た。医局の先生方には大いなる好奇心を持って臨床と研究に励み、新しい教授のもとに結束して鹿児島大学皮膚科を次のステージに引き上げて欲しいとお願いしつつ最後の巻頭言の筆を擱く。

2024年3月

# 目 次

業績集発刊にあたって

## 業 績

2022 (R4) 年 4 月～2023 (R5) 年 3 月

I. 著 書.....	7
II. 総 説.....	8
III. 原 著.....	9
IV. その他.....	12
V. 学会発表.....	13
VI. 社会への貢献 (マスメディア等) .....	24
VII. 学会・講演会などの開催 .....	25
VIII. 学会活動.....	26
IX. Journal Review.....	28
X. 学内活動.....	29
XI. 学生講義.....	30
XII. 社会活動.....	32
XIII. 文部省科学省科学研究費等取得.....	33
XIV. 特 許.....	33
XV. 受 賞.....	33
XVI. 学位取得者.....	33
XVII. 専門医取得者 .....	33
XVIII. 教室員の動向.....	34

## 2023 (R5) 年 4 月～2024 (R6) 年 3 月

I. 著 書.....	39
II. 総 説.....	40
III. 原 著.....	41
IV. その他.....	43
V. 学会発表.....	44
VI. 社会への貢献（マスメディア等）.....	54
VII. 学会・講演会などの開催.....	55
VIII. 学会活動.....	56
IX. Journal Review.....	58
X. 学内活動.....	59
XI. 学生講義.....	60
XII. 社会活動.....	62
XIII. 文部省科学省科学研究費等取得.....	63
XIV. 特 許.....	63
XV. 受 賞.....	63
XVI. 学位取得者.....	63
XVII. 専門医取得者.....	63
XVIII. 教室員の動向.....	64

**2022 (R4) 年 4 月～2023 (R5) 年 3 月**



# I. 著 書

## 【欧文著書】

ナ シ

## 【和文著書】

- 1) 科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版  
浅井 純、浅越健治、安齋眞一、井垣 浩、石川雅士、伊豆津宏二、伊東孝通、猪爪隆史、今福恵輔、上原治朗、内 博史、梅林芳弘、大芦孝平、大熊加恵、大塚篤司、大塚幹夫、大橋隆治、勝俣範之、加藤潤史、加藤裕史、門野岳史、河井一浩、清原英司、清原隆宏、古賀弘志、逆瀬川純子、猿田 寛、七戸龍司、島内隆寿、菅谷 誠、副島俊典、高井利浩、田中亮多、寺本由紀子、中川雅裕、中村泰大、中村善雄、並川健二郎、並木 剛、秦 洋郎、八田尚人、濱田利久、早川和重、林 礼人、福島 聡、藤澤康弘、藤田英樹、藤村 卓、舩越 健、帆足俊彦、前田進太郎、増澤真実子、松下茂人、皆川 茜、宮垣朝光、宮川卓也、宮下 梓、村田洋三、吉野公二、米倉健太郎、和田 誠。  
公益社団法人 日本皮膚科学会・一般社団法人 日本皮膚悪性腫瘍学会 編。  
科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版 (2022.6)
- 2) 【好中球が関わる皮膚疾患 update】顆粒球単球吸着除去療法の実態  
金蔵拓郎(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
Derma. 324 : 81-88 (2022.7)
- 3) 第37回日本乾癬学会学術大会を終えて  
金蔵拓郎(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
皮膚病診断 44 : 1110-1111 (2022.12)
- 4) 本学で発見された分子 CD147 (ベシジン) が皮膚の難病、乾癬の発症に関わっていることを解明  
金蔵 拓郎(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
鹿児島大学医学部医師会報 42 : 67-74 (2022)
- 5) 学会報告「第37回日本乾癬学会学術大会」  
金蔵拓郎(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
鹿児島大学医学部医師会報 42 : 88-79 (2022)
- 6) 偽リンパ腫  
河井一浩(新潟医療生活協同組合 木戸病院)  
皮膚疾患最新の治療 2023-2024 259 (2023.1)
- 7) 貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎  
金蔵拓郎(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
皮膚疾患最新の治療 2023-2024 50 (2023.1)

## II. 総 説

### 【欧文総説】

ナ シ

### 【和文総説】

- 1) 【皮膚リンパ腫の病態、診断と治療】疫学調査からわかる本邦の皮膚リンパ腫  
藤井一恭  
皮膚科 1 (3) 306-317 (2022.3)
- 2) 病態から考える薬物療法-皮膚リンパ腫  
藤井一恭  
皮膚科の臨床 64(5) 976-984 (2022.4)

### III. 原 著

#### 【欧文原著】

- 1) Granulocyte and monocyte adsorptive apheresis for pyoderma gangrenosum.  
Higashi Y, Ibusuki A, Baba N, Hatanaka M, Tada KI, Kanekura T.  
Ther. Apher. Dial. 26(2): 450-455 (2022.4)
- 2) Invasive squamous cell carcinoma arising from long-lasting enterocutaneous fistula due to Crohn's disease.  
Kawahira H, Fujii K, Ohi H, Kanekura T.  
J. Cutan. Immunol. Allergy 5: 184-185 (2022.4)
- 3) Development of mycosis fungoides with peripheral blood involvement after a single use of dupilumab.  
Fujii K, Kawahira H, Hisadome M, Kanekura T.  
J. Cutan. Immunol. Allergy. 5: 188-189 (2022.4)
- 4) Effects of immune checkpoint inhibitor therapy resumption in patients with malignant tumors after moderate-to-severe immune-related adverse events.  
Kawahira M, Kanmura S, Mizuno K, Machida K, Ohtsuka T, Sato M, Enokida H, Yamashita M, Kanekura T, Arima S, Nakamura N, Sugiura T, Yoshimoto K, Kobayashi H, Ishitsuka K, Suzuki S, Ueno S, Ido A.  
PLoS. One. 17(4): e0267572 (2022.4)
- 5) Lichenoid drug eruption after coronavirus disease 2019 vaccination.  
Baba A, Kanekura T, Tsubouchi H.  
J. Dermatol. 49(5): e159-e160 (2022.5)
- 6) Identification of distinct N-glycosylation patterns on extracellular vesicles from small-cell and non small-cell lung cancer cells.  
Kondo K, Harada Y, Nakano Mi, Suzuki T, Fukushige T, Hanzawa K, Yagi H, Takagi K, Mizuno K, Miyamoto Y, Taniguchi N, Kato K, Kanekura T, Dohmae N, Machida K, Maruyama I, Inoue H.  
J. Biol. Chem. 298(6): 101950 (2022.6)
- 7) Felty syndrome in a patient with undiagnosed rheumatoid arthritis presenting with multiple cutaneous abscesses.  
Uchida S, Kawai K, Tsutsui Y, Yamazaki M.  
J. Dermatol. 49(6): e208-e209 (2022.6)
- 8) Angiomyomatous hamartoma of the inguinal lymph nodes with localized lymphedema presenting as a soft subcutaneous mass.  
Honda R, Fujii K, Nakajo M, Kanekura T.  
JAAD case reports 27: 117-120 (2022.7)
- 9) Paraneoplastic acral vascular syndrome in a patient with uterine cancer.  
Yoshizaki A, Ibusuki A, Baba N, Takeda K, Fujii K, Kamio M, Maruyama Y, Higashi Y, Kanekura T.  
J. Dermatol. 49(8): e274-e275 (2022.8)
- 10) Clear cell syringoma: Disappearance of clear cells after improvement in diabetes mellitus by pituitary adenoma resection.  
Matsuoka A, Fujii K, Kanekura T.  
J. Dermatol. 49(8) : e268-269 (2022.8)

- 11) Disseminated cutaneous sporotrichosis with intravascular granuloma.  
Nomoto Y, Higashi Y, Uchida Y, Fujii K, Ooka T, Kanekura T.  
J. Dermatol. 49(9): e301-e302 (2022. 9)
- 12) Programmed cell death ligand 1 measurement study in granulocyte colony-stimulating factor-producing lung cancer: an observational study.  
Miyazaki K, Shiba A, Ikeda T, Higashi Y, Aga M, Hamakawa Y, Taniguchi Y, Misumi Y, Agemi Y, Nakamura Y, Shimokawa T, Okamoto H.  
BMC Cancer. 22(1): 977 (2022.9)
- 13) Prevention of non-infectious pulmonary complications after intra-bone marrow stem cell transplantation in mice.  
Yamasuji-Maeda Y, Nishimori H, Seike K, Yamamoto A, Fujiwara H, Kuroi T, Saeki K, Fujinaga H, Okamoto S, Matsuoka K, Fujii N, Tanaka T, Fujii M, Mominoki K, Kanekura T, Maeda Y.  
PLoS One 17(9): e0273749 (2022.9)
- 14) Epstein-Barr virus-positive primary cutaneous Hodgkin lymphoma.  
Nomoto Y, Fujii K, Nakamura D, Gushi A, Kanekura T.  
J. Dermatol. 49(11): e413-e414 (2022.11)
- 15) Subcutaneous panniculitis -like T-cell lymphoma associated with methotrexate treatment.  
Matsuoka A, Fujii K, Higashi Y, Yoshimitsu M, Arakawa F, Ohshima K, Kanekura T.  
J. Dermatol. 49(12): e430-432 (2022.12)
- 16) A severe case of papulovesicular exanthema with rhabdomyolysis after corona virus disease 2019 heterologous booster vaccination.  
Baba A, Maki Y, Kanekura T, Tsubouchi H.  
J. Eur. Acad. Dermatol. Venereol. 36(12): e982-e983 (2022.12)
- 17) Overexpressed perforin contributes to the melanocyte destruction via epigenetic regulation in Patients with vitiligo.  
Deng Q, Zou P, Du P, Shi Y, Pi Z, Xiao Y, Kanekura T, Zhang H, Zhan Y, Qiu X, Ding Y, Zeng Z, Xiao R.  
Int. Immunopharmacol. 114: 109574 (2023.1)
- 18) Erythema nodosum at COVID-19 vaccine injection site.  
Matsuoka A, Higashi Y, Kanekura T.  
J. Dermatol. 50(2): e83-e84 (2023.2)
- 19) Kikuchi-Fujimoto disease presenting with papular lesions on the elbows and knees.  
Takei I, Kawai K, Yamazaki M.  
J. Cutan. Immunol. Allergy 6: 139-141 (2023.3)

#### 【和文原著】

- 1) 【好酸球の役割を知り、診断・治療に活かす】(Part2.)皮疹から考える:症例をみよう  
紅斑・浮腫紅斑をみる(case4) episodic angioedema with eosinophilia(EAE)  
有村 亜希子、金蔵 拓郎  
Visual Dermatology(2186-6589) 21 (9) : e883-884 (2022.8)
- 2) 自家感作性皮膚炎  
河井一浩  
今日の皮膚疾患治療指針第5版 340-342 (2022.3)

- 3) 血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫  
河井一浩  
今日の皮膚疾患治療指針第 5 版 839-842 (2022.3)

## IV. その他

- 1) 皮膚科専門医のための模擬テスト2  
東 裕子  
皮膚科 1 (3) : 423-425 (2022.3)
- 2) 【かゆみ診療に必要な最新の知識】かゆみの薬物治療 外用剤  
金蔵拓郎  
臨牀と研究 99 (3) : 301-306 (2022.3)
- 3) 追悼文「神崎 保先生を偲んで」  
金蔵拓郎  
日皮会誌 132(6) : 1411-1414 (2022.5)
- 4) 壊疽性膿皮症診療の手引き 2022  
山本俊幸、山崎研志、山中恵一、小宮根真弓、川上民裕、山元 修、金蔵拓郎、  
樋口哲也、高橋隼也、松島由明、菊池信之、壊疽性膿皮症診療の手引き作成委員会  
日本皮膚科学会雑誌 132(6) : 1415-1440 (2022. 5)
- 5) 「掌蹠膿疱症診療の手引き 2022」  
照井 正、小林里実、山本俊幸、大久保ゆかり、阿部名美子、井汲菜摘、  
石井まどか、伊藤明子、梅澤慶紀、金蔵拓郎、川上 洋、岸部麻里、黒木香奈、  
車谷紋乃、河野通良、清水忠道、辻 成佳、十一英子、中村元樹、西田絵美、  
葉山惟大、平野宏文、藤澤大輔、藤城幹山、藤田英樹、松本由香、森田明理、  
村上正基、日本皮膚科学会掌蹠膿疱症診療の手引き策定委員会  
日本皮膚科学会雑誌 132(9) : 2055-2113 (2022.08)
- 6) 【壊疽性膿皮症】壊疽性膿皮症に対する顆粒球吸着除去療法  
東 裕子  
皮膚科 2 (5) : 650-654 (2022.11)

## V. 学会発表

### 【国際・特別（招請）講演】

ナ シ

### 【国際・一般講演】

ナ シ

### 【国際・教育講演】

ナ シ

### 【国際・シンポジウム】

ナ シ

### 【国際・ワークショップ】

ナ シ

### 【国際・セミナー】

ナ シ

### 【国際・一般演題】

- 1) Epstein-Barr Virus-positive multiple primary cutaneous Hodgkin lymphoma.  
Fujii K, Nomoto Y, Nakamura D, Kanekura T.  
The 12th asian Dermatological Congres

August 4-5, 2022, Tokyo Japan

### 【国際・その他】

- 1) <Keynote Lecture>Neutrophilic dermatosis.  
Kanekura T.  
The 12th asian Dermatological Congres

August 4-5, 2022, Tokyo Japan

### 【国内・特別（招請）講演】

- 1) 〈生涯教育セミナー〉 これで安心！医師キャリア形成のサポート いろいろな診療科での取り組み方  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会  
2022 年 11 月 3 日 長崎
- 2) 本邦における皮膚原発未分化大細胞リンパ腫の現状：疫学調査のサブグループ解析から  
藤井一恭（鹿児島大学皮膚科）  
第 3 回皮膚リンパ腫症例検討会  
2022 年 12 月 9 日 博多
- 3) 皮膚疾患に対する顆粒球単球吸着除去療法  
金蔵拓郎（鹿児島大学皮膚科）  
Psoriasis Aim For The Summit 2023  
2023 年 3 月 29 日 栃木

### 【国内・一般講演】

ナ シ

### 【国内・教育講演】

- 1) 皮膚科診療における悪性リンパ腫 皮膚科で診る ATLL と菌状息肉症/セザリ一症候群  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
社内勉強会（Meiji Seika ファルマ株式会社）  
2022 年 4 月 13 日 京都
- 2) 多様なキャリア形成を考える  
サバシティの選び方～私が出会った大切な人たちと言葉たち～  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 121 回日本皮膚科学会総会  
2022 年 6 月 4 日 京都
- 3) 疫学調査とガイドラインから読み解く皮膚悪性リンパ腫診療に必要な基礎知識  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
若手皮膚科医リンフォーマ研究会  
2022 年 9 月 16 日 大阪
- 4) 鹿児島大学での皮膚疾患の治療について  
馬場直子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
社内研修会（大鵬薬品工業株式会社）  
2023 年 1 月 18 日 鹿児島
- 5) 皮膚 T 細胞リンパ腫の現状  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
社内勉強会（大鵬薬品工業株式会社）  
2023 年 1 月 19 日 鹿児島

## 【国内・シンポジウム】

- 1) きずが治る？シルクのふしぎなちから  
馬場淳徳（鹿児島市立病院皮膚科）  
第38回日本臨床皮膚科医会総会  
2022年4月23～24日 鹿児島
- 2) 皮膚科医の勤務状況からみる打開策の検討  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第121回日本皮膚科学会総会  
2022年6月4日 京都
- 3) 乾癬と生活習慣病との関連性-脂質代謝異常との関わり-  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第37回日本乾癬学会学術大会  
2022年9月9～10日 鹿児島
- 4) 掌蹠膿疱症に対する顆粒球単球吸着除去療法  
東 裕子<sup>1</sup>、小林知子<sup>2</sup>、立石千晴<sup>3</sup>、阿部名美子<sup>2</sup>、大久保ゆかり<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>東京医科大学皮膚科学分野、  
<sup>3</sup>大阪市立大学大学院研究科皮膚皮膚病態学)  
第43回日アフェレシス学会学術大会  
2022年11月11～12日 金沢

## 【国内・ワークショップ】

ナ シ

## 【国内・セミナー】

- 1) アトピー性皮膚炎の全身治療について  
～当院におけるバリシチニブの使用経験を踏まえて～  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
Power Seminar in Kagoshima（日本イーライリリー株式会社）  
2022年5月11日 鹿児島
- 2) 乾癬治療と病診連携  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
乾癬セミナー in 北薩での特別講演（協和キリン株式会社）  
2022年5月12日 鹿児島
- 3) 〈ランチョンセミナー〉疫学調査から見えてきた皮膚悪性リンパ腫の新規治療の必要性  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会  
2022年8月27～28日 新潟
- 4) 〈スイーツセミナー〉乾癬におけるアダカラムの活用法  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2022年10月22～23日 久留米

- 5) 〈イブニングセミナー〉疫学調査から見えてきた皮膚リンパ腫の診療の現状  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2022年10月22～23日 久留米
- 6) 〈セミナー〉アトピー性皮膚炎治療 up date  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
鹿児島アレルギーセミナー（アッヴィ合同会社）  
2022年10月26日 鹿児島
- 7) 〈セミナー〉皮膚科での掌蹠膿疱症の診療  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
Kagoshima 診療科連携セミナー（ヤンセンファーマ株式会社）  
2022年10月26日 鹿児島
- 8) 〈セミナー〉乾癬におけるアダカラムの活用  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第43回日本アフェレシス学会  
2022年10月11～12日 金沢
- 9) 〈セミナー〉当院におけるアトピー性皮膚炎の全身療法について  
～バリシチニブの使用経験を踏まえて～  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
Dermatology Expert Seminar in Kagoshima（日本イライリリー株式会社）  
2022年11月22日 鹿児島
- 10) 当院におけるアトピー性皮膚炎の全身療法について  
～バリシチニブの使用経験を踏まえて～  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
皮膚科セミナー in 北薩  
2022年12月1日 鹿児島

#### 【国内・一般演題】

- 1) 多発性の類上皮腫芽腫病変を契機に診断された選択的 IgM 欠損症  
藤井一恭<sup>1</sup>、畠中美帆<sup>1</sup>、吉満 誠<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、  
<sup>2</sup>同血液・膠原病内科）  
第78回日本皮膚科学会高知地方会  
2022年4月2日 高知
- 2) 令和4年度鹿児島大学大学院医歯学総合研究科感覚器病学講座皮膚科学分野教室の体制  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 3) 2021年鹿児島大学病院皮膚科外来、紹介患者、パッチテスト統計  
馬場直子、吉崎 愛、宮内一成、川平尚生、山筋好子、久留光博、畠中美帆、  
指宿敦子、多田浩一、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島

- 4) 2021年鹿児島大学病院皮膚科入院患者統計  
川平尚生、吉崎 愛、本田遼馬、宮内一成、大久保葵、野元裕輔、松岡温子、  
山筋好子、久留光博、畠中美帆、馬場直子、指宿敦子、多田浩一、藤井一恭、  
東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 5) 孤立性病変を呈したうつ滞性皮膚炎の1例  
吉崎 愛、馬場直子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 6) 多発性骨髄腫に伴うALアミロイドーシスの1例  
久留光博<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、島 晃大<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同血液内科）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 7) 鹿児島市立病院での研修を開始して  
山田きよ子（鹿児島市立病院）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 8) 今村総合病院での研修を終えて  
上塘葉子、武田浩一郎、玉井真理子、佐藤浩子、米倉健太郎（今村総合病院）  
第190回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2022年4月10日 鹿児島
- 9) 糖尿病の改善に伴って透明細胞が消失した透明細胞汗管腫の1例  
松岡温子、多田浩一、藤井一恭、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第38回日本臨床皮膚科医会総会  
2022年4月23～24日 鹿児島
- 10) 外毛根鞘嚢腫に包まれた石灰化上皮腫の1例  
吉崎 愛、松岡温子、馬場直子、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第121回日本皮膚科学会総会  
2022年6月2～5日 京都
- 11) 糖尿病の改善に伴って透明細胞が消失した透明細胞汗管腫の1例  
松岡温子、多田浩一、藤井一恭、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第121回日本皮膚科学会総会  
2022年6月2～5日 京都
- 12) 思春期に発症した川崎病の1例  
武居いづみ、河井一浩、岡崎健一、樋浦 誠、筒井由夏、内田梢太（木戸病院皮膚科）  
日本皮膚科学会新潟地方第406回例会  
2022年6月18日 （Web開催）
- 13) 巨大な汗孔角化症に多発した有棘細胞癌の1例  
山筋好子<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、多田浩一<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、

橋口貴樹<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>南九州市）  
第38回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2022年6月24～25日 青森

- 14) メトトレキサート投与中に生じた皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫の1例  
松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、多田浩一<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup>、吉満 誠<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同血液・膠原病内科）  
第38回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2022年6月24～25日 青森

- 15) 〈研究演題〉皮膚リンパ腫 全国症例数調査の結果（2021年版）  
藤井一恭<sup>1,5</sup>、島内隆寿<sup>2,5</sup>、浅井 純<sup>3,5</sup>、藤澤康弘<sup>4,5</sup>、加藤則人  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>浜松医科大学皮膚科、<sup>3</sup>京都府立医科大学皮膚科、  
<sup>4</sup>筑波大学、<sup>5</sup>皮膚がん予後統計委員会）  
第38回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2022年6月24～25日 青森

- 16) デュピルマブ投与後に発症したセザリイ症候群の1例  
上塘葉子、田代幸恵、二宮謙次郎、米倉健太郎（今村総合病院）  
第38回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2022年6月24～25日 青森

- 17) LPH 遺伝子変異を認めた炎症性甲状腺疣状表皮母斑を考えた1例  
松岡温子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、棚橋華奈<sup>2</sup>、秋山真志<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>名古屋大学皮膚科）  
第46回日本小児皮膚科学会学術大会

2022年7月2～3日 千葉

- 18) キノーム解析による HDAC 阻害剤併用療法の新規標的候補分子プロゲステロン受容体の  
同定  
藤井一恭<sup>1</sup>、野口 玲<sup>2</sup>、吉松有紀<sup>3</sup>、近藤 格<sup>2,4</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>国立がん研究センター研究所・希少がん研究分野、  
<sup>3</sup>栃木県立がんセンター研究所・患者由来がんモデル研究分野、  
<sup>4</sup>栃木県立がんセンター研究所）  
第73回日本電気泳動学会総会

2022年7月7～8日 宇都宮

- 19) 先天性三角形脱毛症の1例  
山筋好子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、西 正行<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>始良市）  
第191回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2022年7月10日 鹿児島

- 20) 0.2%シロリムスゲルの使用経験  
馬場淳徳（鹿児島市立）  
第191回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2022年7月10日 鹿児島

- 21) カルボシステインによる固定薬疹の1例  
上塘葉子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、内田洋平<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、

- <sup>2</sup>鹿児島市)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 22) PET-CT で異常集積がみられた結節性筋膜炎の 1 例  
川平尚生、多田浩一、吉崎 愛、松岡温子、馬場直子、指宿敦子、藤井一恭、  
東 裕子、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 23) 小児に生じた multiple miliary osteoma cutis of the scalp の 1 例  
山田きよ子、馬場淳徳 (鹿児島市立)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 24) 多発痛風結節の 1 例  
宮内一成<sup>1</sup>、多田浩一<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、藤井一泰<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、  
米良健太郎<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>鹿児島市立)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 25) 白板症と硬化性萎縮性苔癬の 2 つの前癌病変を認めた外陰部有棘細胞癌の 1 例  
吉崎 愛<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、有村亜希子<sup>2</sup>、久留光博<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、  
藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>いまきいれ総合)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 26) 皮膚腫瘍・皮膚外科を学ぶ若手医師育成のための取り組み その 1  
青木恵美、佐々木奈津子、西原克彦、平野 唯、松下茂人 (鹿児島医療センター)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 27) CD147/Basigin は Th17 細胞への分化を制御し乾癬の病態形成に関与する  
大久保葵<sup>1</sup>、内田洋平<sup>1</sup>、佐藤拓也<sup>2</sup>、小川陽一<sup>2</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、龍華章裕<sup>3</sup>、門松健治<sup>3</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>山梨大、<sup>3</sup>名古屋大学大学院生物化学講座分子生物学)  
第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 7 月 10 日 鹿児島
- 28) 血液内肉腫を伴う播種性皮膚スポロトリコーシスの 1 例  
野元裕輔<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、内田洋平<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、大岡唯祐<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同微生物学)  
第 89 回真菌懇談会 第 4 回日本医真菌学会九州・中四国支部会  
2022 年 7 月 31 日 長崎
- 29) 指跡に腫瘍を呈し、組織学的に血管向性を認めた成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (ATLL)  
藤井一恭<sup>1</sup>、霧島茉莉<sup>2</sup>、古満 誠<sup>2</sup>、橋口貴樹<sup>3</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同血液・膠原病内科、<sup>3</sup>南九州市)  
日本皮膚科学会第 37 回島根地方会 — 山崎 修教授 就任記念  
2022 年 8 月 6~7 日 島根

- 30) SAPHO 症候群の診断時に紫斑と MPO-ANCA 陽性を指摘された一例  
山崎美穂子、濱 ひとみ、矢田雄介、河井一浩 (木戸病院皮膚科)  
日本リウマチ学会中部支部学術集会 第 33 回中部リウマチ学会  
2022 年 9 月 2~3 日 岐阜
- 31) クローン病に対しアダリムマブ投与患者に生じた乾癬脱毛  
上塘葉子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、山筋好子<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、原田亜希子<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>沖永良部)  
第 37 回日本乾癬学会学術大会  
2022 年 9 月 9~10 日 鹿児島
- 32) CD147/Basigin は Th17 細胞への分化を制御し乾癬の病態形成に関与する  
大久保葵<sup>1</sup>、内田洋平<sup>1</sup>、佐藤拓也<sup>2</sup>、小川陽一<sup>2</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、龍華章裕<sup>3</sup>、門松健治<sup>3</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>山梨大、<sup>3</sup>名古屋大学大学院生物化学講座分子生物学)  
第 37 回日本乾癬学会学術大会  
2022 年 9 月 9~10 日 鹿児島
- 33) 基底細胞母斑症候群の 1 例  
藤井一恭、多田浩一、松岡温子、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 75 回日本皮膚科学会愛媛大会学術大会 佐山浩二教授退職記念及び  
藤澤康弘教授就任記念  
2022 年 10 月 8~9 日 愛媛
- 34) The role of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) in itching.  
Fujii K<sup>1</sup>, Uchida Y<sup>1</sup>, Terawaki T<sup>2</sup>, Saito H<sup>2</sup>, Kato S<sup>3</sup>, Ikeda R<sup>3</sup>, Murata M<sup>3</sup>, Kanekura T<sup>1</sup>,  
Kuriara T<sup>2</sup>.  
(<sup>1</sup>Department of Dermatology, Graduate School of Medical and Dental Sciences Kagoshima  
University, <sup>2</sup>Department of pharmacology, Graduate School of Medical and Dental Sciences,  
Kagoshima University, <sup>3</sup>Department of Pharmacology, Graduate School of Science and  
Engineering for Research, University of Toyama)  
第 36 回表皮細胞研究会  
2022 年 10 月 15 日 東京
- 35) 梅毒患者に生じた sweet 病様病変の 1 例  
松岡温子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、久留光博<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、林 久雄<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同産婦人科)  
第 74 回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2022 年 10 月 22~23 日 福岡
- 36) プレドニゾロンとジアフェニルスルホン内服で改善した neutrophilic sebaceous adenitis の  
1 例  
吉崎 愛<sup>1</sup>、畠中美緒<sup>1</sup>、山筋好子<sup>1</sup>、宮本佑美<sup>2</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同耳鼻咽喉科)  
第 74 回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2022 年 10 月 22~23 日 福岡
- 37) クローン病に対しアダリムマブ投与患者に生じた乾癬性脱毛の 1 例  
山筋好子<sup>1</sup>、上塘葉子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、原田亜希子<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>瀬戸内徳洲会病院)  
第 74 回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2022 年 10 月 22~23 日 福岡

- 38) 二重濾過血漿交換療法を行った水疱性類天疱瘡 7 例の検討  
川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、多田浩一<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、山田保俊<sup>2</sup>、  
速見浩士<sup>3</sup>、榎田英樹<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同泌尿器科、<sup>3</sup>花房泌尿器科医院)  
第 43 回日本アフェレシス学会学術大会  
2022 年 11 月 11～12 日 金沢
- 39) Progesterone receptor is a promising target of combination therapy with histone deacetylase inhibitors in cutaneous T-cell lymphoma.  
Fujii K<sup>1</sup>, Noguchi R<sup>2</sup>, Yoshimatsu Y<sup>2</sup>, Kondo T<sup>2</sup>, Kanekura T<sup>1</sup>.  
(<sup>1</sup>The Department of Dermatology, University of Kagoshima, Kagoshima University, Kagoshima, <sup>2</sup>Division of Rare Cancer Research, National Cancer Center Research Institute, Tokyo)  
日本研究皮膚科学会 第 47 回年次学術大会・総会  
2022 年 12 月 2～4 日 長崎
- 40) CD147 antagonist peptide-9 ameliorates the imiquimod-induced psoriatic dermatitis in mice.  
Okubo A<sup>1</sup>, Uchida Y<sup>1</sup>, Higashi Y<sup>1</sup>, Sato T<sup>2</sup>, Ogawa Y<sup>2</sup>, Ryuge A<sup>3,4</sup>, Kadomatsu K<sup>4</sup>, Kanekura T<sup>1</sup>.  
(<sup>1</sup>The Department of Dermatology, University of Kagoshima, Kagoshima, <sup>2</sup>Department of Dermatology, Faculty of medicine, University of Yamanashi, <sup>3</sup>Department of Nephrology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Aichi, Department of Biochemistry, Nagoya University Graduate School of Medicine, Aichi)  
日本研究皮膚科学会 第 47 回年次学術大会・総会  
2022 年 12 月 2～4 日 長崎
- 41) ヒト型抗ヒト IL-4/13 受容体モノクローナル抗体投与後に顕在化した CD8 陽性セザリ-症候群と考えた 1 例  
藤井一恭、吉崎 愛、松岡温子、馬場直子、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科)  
第 3 回皮膚リンパ腫症例検討会  
2022 年 12 月 9 日 博多
- 42) 肘・膝に丘疹性病変を生じた Kikuchi-Fujimoto 病  
武居いづみ、河井一浩、山崎美穂子 (木戸病院皮膚科)  
日本皮膚科学会新潟地方会第 408 回例会  
2022 年 12 月 10 日 Web 開催
- 43) Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysis (PXE-PDE) の 1 例  
吉崎 愛、馬場直子、指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎  
(鹿児島大学大学院皮膚科)  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 44) 皮膚生検が診断に有用であった神経核内封入体病の 1 例  
指宿敦子<sup>1</sup>、福重智子<sup>1</sup>、永田智行<sup>2</sup>、平木 翼、本田裕之<sup>4</sup>、今村研介<sup>5</sup>、中村雅之<sup>5</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科、<sup>2</sup>あいらの森ホスピタル 精神科、<sup>3</sup>鹿児島予防医学研究所、<sup>4</sup>九州大学大学院医学研究院 神経病理学、<sup>5</sup>鹿児島大 神経科精神科)  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 45) 脂漏性角化症の病変内に生じたボーエン病の 1 例

- 馬場直子、指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 46) トラネキサム酸が原因と考えられた AGEP の一例  
有村亜希子（いまきいれ総合病院）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 47) スガマデクスによるアナフィラキシーの 1 例  
山田きよ子<sup>1</sup>、馬場淳徳<sup>1</sup>、吉本男也<sup>2</sup>、濱崎順一郎<sup>2</sup>（<sup>1</sup>鹿児島市立病院、<sup>2</sup>同麻酔科）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 48) 当院で経験した新型コロナワクチン後の副反応と考えられた症例（第 2 報）  
馬場淳徳（鹿児島市立病院）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 49) （ミニシンポジウム）当科における掌蹠膿疱症の治療  
東 裕子、馬場直子、指宿敦子、山筋好子、川平尚生、松岡温子、大久保 葵、  
吉崎 愛、宮内一成、藤井一恭、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 50) （研究演題）骨髄内骨髄移植は移植後肺合併症の発症を予防する  
山筋好子<sup>1</sup>、西森久和<sup>2</sup>、前田嘉信<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学皮膚科学、<sup>2</sup>岡山大 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科）  
第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2022 年 12 月 11 日 鹿児島
- 51) マクロゴールによるアナフィラキシーの 1 例  
山筋好子、宮内一成、指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎  
（鹿児島大学皮膚科学）  
第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会  
2022 年 12 月 16 日 Web 開催
- 52) マクロファージ活性化症候群を合併した抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例  
吉崎 愛<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、  
坂元優一郎<sup>2</sup>、市来航史<sup>2</sup>、高木博佑<sup>2</sup>、石塚賢治<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科、<sup>2</sup>同血液膠原病内科）  
第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会  
2022 年 12 月 16 日 Web 開催

## 【国内・その他】

- 1) 〈コメンテーター〉  
河井一浩（木戸病院皮膚科）  
第 2 回皮膚リンパ腫症例検討会 <甲信越・北陸エリア>  
2022 年 11 月 12 日 Web 開催

- 2) 〈コメンテーター〉  
河井一浩（木戸病院皮膚科）  
第5回皮膚リンパ腫症例検討会〈関西エリア〉

2023年2月18日 Web開催

- 3) 乾癬治療と皮膚感染症について  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第10回西日本炎症性皮膚疾患研究会

2023年2月25日 福岡

## VI. 社会への貢献（マスメディア等）

### 【テレビ】

ナ シ

### 【ラジオ】

ナ シ

### 【新聞】

ナ シ

### 【その他のメディア】

- 1) アダカラム動画シリーズ「エキスパートが語る実践的アダカラム（GMA）活用法  
「PP/PsA 治療における GMA の役割」  
金蔵拓郎  
プロモーション動画（2022年12月20日録画）

## VII. 学会・講演会などの開催

### 【学 会】

- 1) 第 190 回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
Web 開催、城山ホテル鹿児島（ハイブリッド開催） 2022 年 4 月 10 日
- 2) 第 191 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
Web 開催、城山ホテル鹿児島（ハイブリッド開催） 2022 年 7 月 10 日
- 3) 第 192 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
Web 開催、城山ホテル鹿児島（ハイブリッド開催） 2022 年 12 月 11 日

### 【学術講演会】

- 1) 大畑千佳（大阪急性期・総合医療センター皮膚科 主任部長）  
「乾癬治療における抗 IL-17 製剤のポジショニング」  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会・日本イーライリリー株式会社 2022 年 4 月 10 日
- 2) 宮城拓也（琉球大学大学院医学研究科皮膚科学講座 助教）  
「全身性疾患、乾癬の理解に基づいた病診連携ピラミッド」  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会・大鵬薬品工業株式会社・ヤンセンファーマ株式会社 2022 年 7 月 10 日
- 3) 田中 暁（広島大学大学院医系科学研究科皮膚科学 准教授）  
「アトピー性皮膚炎の実際の診療はどう変わったか」  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会・アッヴィ合同会社 2022 年 7 月 10 日
- 4) 中島英貴（高知大学医学部附属病院皮膚科 病院准教授）  
「皮疹型からみる乾癬の最適治療」  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会・サンファーマ株式会社 2022 年 12 月 11 日

## VIII. 学会活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 日本研究皮膚科学会（理事）
- ・ 鹿児島膠原病研究会（世話人）
- ・ 日本皮膚科学会（雑誌委員・西部支部運営委員会・代議員・西部支部学術委員）
- ・ 米国研究皮膚科学会
- ・ 日本生化学会
- ・ 日本免疫学会
- ・ 日本癌学会
- ・ 日本アレルギー学会
- ・ 日本リウマチ学会
- ・ 日本形成外科学会九州地方会
- ・ 日本リンパ網内系学会
- ・ 日本熱傷学会九州地方会
- ・ 鹿児島異種移植研究会（世話人）
- ・ 日本乾癬学会（理事）
- ・ 日本アフェレシス学会（評議員）
- ・ 鹿児島アレルギー懇話会（世話人）
- ・ 皮膚脈管・膠原病研究会（世話人）
- ・ 南九州腫瘍研究会（世話人）
- ・ 日本皮膚悪性腫瘍学会（理事）
- ・ 鹿児島県性感染症研究会（世話人）
- ・ 鹿児島地区皮膚疾患病態治療研究会（代表世話人）
- ・ 鹿児島皮膚アレルギー研究会（代表世話人）
- ・ 鹿児島皮膚疾患の治療を語る会（代表世話人）
- ・ 鹿児島救急医学会（評議員）
- ・ The Open Dermatology Journal, Editorial Board Member
- ・ 第10回日中合同皮膚科学術会議組織委員
- ・ 表皮細胞研究会（監事）
- ・ 日本褥瘡学会九州地方会（世話人）
- ・ 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会（評議員）
- ・ Journal of Dermatological Science, Editorial Board
- ・ 日本皮膚科学会膿疱性乾癬診療ガイドライン改定委員会委員
- ・ 日本アフェレシス学会雑誌編集委員
- ・ 日本研究皮膚科学会推薦委員
- ・ 第18回国際ヒトレトロウイルス HTLV 会議組織委員
- ・ 日本皮膚科学名誉会員功労会員推薦委員
- ・ 第37回日本乾癬学会学術大会会長
- ・ 日本皮膚免疫アレルギー学会 学術教育委員（2020.6～）

### <東 裕子>

- ・ 日本皮膚科学会西部支部（代議員）
- ・ 日本研究皮膚科学会（評議員・ダイバーシティ委員会委員）
- ・ 働き方改革 WG 委員（日本皮膚科学会）
- ・ C-2 水準審査委員(日本皮膚科学会)

<藤井一恭>

- 日本研究皮膚科学会（評議員）
- 九州真菌懇話会（施設幹事）
- 日本電気泳動学会（評議員）
- 皮膚悪性腫瘍学会（評議員・皮膚がん予後統計委員会委員）
- 日本癌治療学会・協力委員
- 第3回皮膚リンパ腫症例検討会 臨床コメンテーター

<河井一浩>

- 日本皮膚科学会
- 日本研究皮膚科学会（評議員）
- 日本皮膚悪性腫瘍学会（評議員）
- 日本免疫学会
- The Society for Investigative Dermatology
- International Society for Cutaneous Lymphomas
- 日本臨床皮膚科医会
- The American Association of Immunologists
- 日本皮膚免疫アレルギー学会（代議員）
- J.Dermatol. (Section Editor)

## IX. Journal Review

<金蔵拓郎>

- J. Dermatol. / TODJ (2 編)

<東 裕子>

- J. Dermatol. (8 編) / Schol ED

<藤井一恭>

- J. Dermatol. (5 編) / Eur. J. Dermatol. / Cancer / Dermatologic therapy / Cells / Clin. Exp. Dermatol. /  
西日本皮膚科

<河井一浩>

- J. Dermatol. (35 編)

## X. 学内活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 医学部共同利用研究棟運営委員
- ・ 教員の評価に関する制度検討委員会委員
- ・ 研究フォーラム・インフォメーションオフィスメンバー
- ・ セカンドオピニオン外来担当医
- ・ 卒後臨床研修部研修管理委員会委員
- ・ 感覚器センター長
- ・ 鹿児島大学
- ・ 鹿児島大学における軍事的安全保障研究とみなされる可能性のある研究等に関する審査委員会医員
- ・ 学位審査委員（1件）

## XI. 学生講義

### <金蔵拓郎>

- ・【医学部】[膠原病の皮膚症状 (2022.4.7 : M4) ]
- ・【医学部】[炎症性皮膚疾患 (2022.7.14 : M3) ]
- ・【宮崎大学講義】[皮膚症状からみる膠原病 (2022.12 : M3) ]

### <東 裕子>

- ・【共通教育】[皮膚のがん (2022.4.28) ]
- ・【医学部】[水疱症、角化症 (2022.7.13 : M4) ]
- ・OSCE (2022.9.22 : M4)
- ・【医学部】[感染症 (2023.1.18 : M3) ]

### <藤井一恭>

- ・【医学部】[皮膚悪性腫瘍 (2022.7.22 : M4) ]
- ・【医学部】[皮膚の悪性リンパ腫 (2022.12.22 : M4) ]

### <多田浩一>

- ・【歯学部】[水疱症 (表皮水疱症) 、ベーチェット病 (2022.5.30 : M5) ]
- ・OSCE (2022.9.6)

### <指宿敦子>

- ・【歯学部】[アレルギー疾患、皮膚テスト (2022.5.23 : M5) ]
- ・【医学部】[縫合実習 1 (2022.9.12 : M4) ]

### <馬場直子>

- ・【歯学部】[腫瘍性疾患 (2022.6.13 : M5) ]
- ・【医学部】[発疹学・検査 (2022.7.12 : M3) ]
- ・OSCE (2022.9.21)
- ・【看護】[各論(I) (2022.11.22 : M2) ]

### <山筋好子>

- ・【歯学部】[皮膚の構造・機能 先天性疾患 (2022.5.16 : M5) ]
- ・【医学部】[母斑、母斑症、血管腫、皮膚良性腫瘍 (2022.7.15 : M4) ]
- ・【医学部】[縫合実習手技 (2022.9.5 : M4) ]
- ・OSCE (2022.9.21) AM
- ・【医学部】[感染症チュートリアル (2023.1.26 : M3) ]

### <川平尚生>

- ・【歯学部】[膠原病、感染症 (2022.6.6 : M5) ]
- ・OSCE (2022.9.6)
- ・OSCE (2022.9.22) PM
- ・【看護】[各論(II) (2022.11.29 : M2) ]

<松岡温子>

- ・【看護】[総論 (2022.11.8 : M2) ]
- ・【医学部】[感染症チュートリアル (2022.12.12 : M3) ]

<大久保 葵>

- ・ OSCE (2022.9.22) AM

<本間葉子>

- ・ OSCE (2022.9.22) AM

<宮内一成>

- ・【野田女子高等学校】[成人看護学-皮膚 (前半) (2022.6.30 : M2) ]
- ・【野田女子高等学校】[成人看護学-皮膚 (後半) (2022.7.7 : M2) ]
- ・【医学部】[感染症チュートリアル (2023.1.16 : M3) ]

<吉崎 愛>

- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 1/3 (2022.6.2 : M2) ]
- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 2/3 (2022.6.16 : M2) ]
- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 3/3 (2022.6.23 : M2) ]
- ・【医学部】[感染症チュートリアル (2022.1.16 : M3) ]

<河井一浩>

- ・【医学部】[湿疹・皮膚炎 (2022.7.11 : M3) ]

## XII. 社会活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 鹿児島県感染症発生動向調査企画委員
- ・ 鹿児島県特定疾患認定委員
- ・ 最高裁判所専門委員
- ・ 鹿児島県 ATL 制圧委員会研究推進部会委員
- ・ 大阪地方裁判所損害賠償請求事件鑑定人
- ・ 本格焼酎部会会員
- ・ 焼酎発酵副産物研究会会員
- ・ 福岡地方裁判所平成 19 年（ワ）第 309 号 損害賠償請求事件専門委員
- ・ 鹿児島県医師会評議員
- ・ 財団法人親和会評議員
- ・ 鹿児島大学医学部創立 70 周年・西洋医学開講 150 周年記念事業実行委員長
- ・ 鹿児島大学医学部医師会理事
- ・ 鹿児島県アレルギー疾患医療連絡協議会委員

### XIII. 文部省科学省科学研究費等取得

- 1) 『CD147/basigin を標的とした乾癬の新規治療の開発』  
金蔵拓郎（代表）基盤研究（C）：403 万円
- 2) 『日本研究皮膚科学会 第 47 回年次学術大会 研究助成』  
金蔵拓郎：50 万円
- 3) 『低密度好中球(LDN)の miRNA を治療標的とした好中球性皮膚症の病態解明』  
東 裕子（代表）基盤研究（C）：429 万円
- 4) 『円形脱毛症における AGEs（終末糖化産物）の毛包ストレス-T 細胞応答への寄与解明』  
内田洋平（代表）基盤研究(C)：429 万円

### XIV. 特 許

ナ シ

### XV. 受 賞

ナ シ

### XVI. 学位取得者

- 1) 『CD147 Is Essential for the Development of Psoriasis via the Induction of Th17 Cell Differentiation』  
(CD147/basigin の Th 細胞分化と乾癬病態形成に関する包括的研究)  
Int J Mol Sci. 23(1):177. (2021)

大久保葵：総研第 687 号 博士（医学） [令和 4 年 11 月 17 日授与]

### XVII. 専門医取得者

松岡温子      大久保 葵

## XVIII. 教室員の動向

【教 授】 金蔵拓郎

【准 教 授】 東 裕子

【診療准教授】 藤井一恭

【診療講師】 多田浩一 (2022.9 迄)

【講 師】 指宿敦子 (2022.11～)

【助 教】 馬場直子 山筋好子 (2022.4～) 川平尚生 (2022.4～)  
松岡温子 (2022.11～)

【医 員】 大久保 葵 本間洋子 (2022.9 迄) 宮内一成  
吉崎 愛

【大学院生】 山筋好子 野元裕輔 大久保 葵 (2022.11 迄)

【部内研究生】 な し

【部外研究生】 寺崎祐太郎

【研修登録医】 な し

【客員研究員】 河井一浩 内田洋平

【医 局 長】 指宿敦子

【病棟医長】 馬場直子

【外来医長】 川平尚生

【出 向 者】 有村亜希子：いまきいれ病院 三好逸男：キラメキラス ヘルスケアホスピタル  
馬場淳徳：鹿児島市立病院 山田きよ子：鹿児島市立病院  
野元裕輔：鹿児島県立大島病院

【外国留学】 な し

【国内留学】 な し

【外国人留学生】 な し

【外国人帰国者】 な し

【退局者】 多田浩一 勝江浩未

【退職者】 なし

【新規就職者】 なし

【出産・育児休暇・休職】 勝江浩未（2023.3迄）



**2023 (R5) 年 4 月～2024 (R6) 年 3 月**



# I. 著 書

## 【欧文著書】

ナ シ

## 【和文著書】

- 1) 日皮会委員会紹介「倫理委員会」「利益相反委員会」  
金蔵拓郎  
JDA Letter 56 (7) : (2023.7)
- 2) 神崎病  
金蔵拓郎  
ライソゾーム病—最新の病態, 診断, 治療の進歩— 改訂第2版診断  
250-251 (2023.10)
- 3) 顆粒球単球吸着除去療法  
金蔵拓郎  
日本臨床 81 (12) : 1922-1928 (2023.12)
- 4) 結節性紅斑  
藤井一恭  
今日の治療指針 66 : 1288-1293 (2024. 1)

## II. 総説

### 【欧文総説】

- 1) CD147/basigin is involved in the development of malignant tumors and T-cell-mediated immunological disorders via regulation of glycolysis  
Kanekura T.  
Int. J. Mol. Sci. 24 (24) : 17344 (2023.12)
- 2) Mitochondrial oxidative stress, mitochondrial ROS storms in long COVID pathogenesis.  
Noonong K, Chatatikun M, Surinkaew S, Kotepui M, Hossain R, Bunluepuech K, Noothong C, Tedasen A, Klangbud W K, Imai M, Kawakami F, Kubo M, Kitagawa Y, Ichikawa H, Kanekura T, Sukati S, Somsak V, Udomwech L, Ichikawa T, Nissapatorn V, Tangpong J, Indo H P, Majima HJ.  
Front. Immunol. 14: 1275001. (2023.12)

### 【和文総説】

ナ シ

### III. 原著

#### 【欧文原著】

- 1) Adult T-cell leukemia/lymphoma presenting with ulceration of the digits.  
Fujii K, Kirishima M, Yoshimitsu M, Hashiguchi T, Tanimoto A, Kanekura T.  
J. Dermatol. 50(5): e168-e170 (2023.5)
- 2) Prevalence of human T-lymphotropic virus type I in patients with psoriasis and its effect on treatment choice: A multicenter observational study.  
Yonekura K, Tsuruta N, Miyagi T, Koike Y, Higashi Y, Nakahara T, Ohata C, Kaneko S, Yamaguchi M, Saito K, Yanase T, Imafuku S.  
J. Dermatol. Sci. 110(3): 103-106 (2023.6)
- 3) Survival rates of systemic interventions for psoriasis in the Western Japan Psoriasis Registry: A multicenter retrospective study.  
Yanase T, Tsuruta N, Yamaguchi K, Ohata C, Ohyama B, Katayama E, Sugita K, Kuwashiro M, Hashimoto A, Yonekura K, Higashi Y, Murota H, Koike Y, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Hatano Y, Saito K, Takahashi K, Miyagi T, Kaneko S, Ota M, Harada K, Morizane S, Ikeda K, Furue M, Nakahara T, Okazaki F, Sasaki N, Okada E, Yoshida Y, Ito K, Imafuku S.  
J. Dermatol. 50(6): 753-765 (2023.6)
- 4) Clinical characteristics of patients with psoriasis with family history: A multicenter observational study.  
Ohata C, Anezaki H, Kaneko S, Okazaki F, Ito K, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Koike Y, Murota H, Miyagi T, Takahashi K, Sugita K, Hashimoto A, Nakahara T, Morizane S, Ohyama B, Saruwatari H, Yanase T, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Hatano Y, Saito K, Katayama E, Yamane M, Yamazaki F, Tsuruta N, Imafuku S.  
J. Dermatol. 50(6): 746-752 (2023.7)
- 5) Letter re: SARS-CoV-2 vaccine in patients with thymic epithelial tumours with and without active or pre-existing autoimmune disorders: Brief report of a TYME network safety analysis.  
Baba A, Tokunaga T, Sakasegawa K, Kanekura T, Tsubouchi H.  
Eur. J. Cancer. 187: 96-98 (2023.7)
- 6) Neutrophilic sebaceous adenitis treated successfully with diaminodiphenyl sulfone.  
Yoshizaki A, Fujii K, Kanekura T.  
J. Dermatol. 50 (7): e208-e209. (2023.7)
- 7) Dupilumab aggravates Sézary syndrome: The importance of accurate pathological diagnosis.  
Homma Y, Yonekura K, Tashiro Y, Ninomiya K, Kanekura T.  
Journal of Cutaneous Immunology and Allergy 6: 186-188 (2023.7)
- 8) Comparison of oral itraconazole given for two days plus topical tacrolimus versus topical tacrolimus for maintenance treatment of seborrheic dermatitis in Vietnam.  
Do HTT, Le TV, Kanekura T.  
Indian J Dermatol Venereol Leprol 89 (5): 748-750 (2023.8)
- 9) Clinicopathological demographics of malignant melanomas of the vulva and vagina in Japan.  
Ogata D, Nishio S, Hatta N, Kaji T, Fujii K, Mikami M, Kiyohara Y, Enomoto T.  
Melanoma Res. 33(4): 300-308 (2023.8)
- 10) Clinical guidance of pyoderma gangrenosum 2022.  
Yamamoto T, Yamasaki K, Yamanaka K, Komine M, Kawakami T, Yamamoto O, Kanekura T,

Higuchi T, Takahashi T, Matsushima Y, Kikuchi N, Japanese Dermatological Association .  
Pyoderma Gangrenosum Treatment Guidelines Drafting Committee.  
J. Dermatol. 50 (9): e253-e275 (2023.8)

- 11) Double filtration plasmapheresis for bullous pemphigoid: Outcomes from the evaluation of eight patients.  
Kawahira H, Fujii K, Higashi Y, Yamada Y, Mitsuke A, Enokida H, Kanekura T.  
Ther. Apher. Dial. 27 (6): 1048-1050 (2023.12)
- 12) CD147/Basigin is involved in the development of malignant tumors and T-Cell-Mediated immunological Disorders via Regulation of Glycolysis  
Kanekura T.  
Int. J. Mol. Sci. 24 (24): 17344 (2023.12)
- 13) Mitochondrial oxidative stress, mitochondrial ROS storms in lung COVID pathogenesis  
Noonong K, Chatatikun M, Surinkaew S, Kotepui M, Hossain R, Bunluepuech K, Noothong C, Tedasen A, Klangbud W K, Imai M, Kawakami F, Kubo M, Kitagawa Y, Ichikawa H, Kanekura T, Sukati S, Somsak V, Udomwech L, Ichikawa T, Nissapatorn V, Tangpong J, Indo HP, Majima H J.  
Front Immunol. 14: 1275001 (2023.12)
- 14) Efficacy of 308 nm monochromatic excimer lamp and topical tacrolimus combination therapy in localized vitiligo: a study in vietnam  
Do TTH, Nguyen TMHN, Kanekura T.  
Int. J. Dermatol. Venereol. 6 (4): 224-228 (2023.12)
- 15) Neutrophil-derived microRNA-1290 promotes keratinocyte proliferation in psoriasis.  
Higashi Y, Yamakuchi M, Ibusuki A, Okubo A, Fukushige T, Hashiguchi T, Kanekura T.  
J. Invest. Dermatol. S0022-202X(23)03209-8 (2023.12)
- 16) Nodular amyloidosis presenting as multiple thin yellow plaques on the back.  
Terao K, Kawai K, Takei I.  
J. Dermatol. 51(1): e19-e21 (2024.01)
- 17) Hair Follicle Damage by 100-mGy Low-Dose Fractionated X-Irradiation and Protective Effects of TEMPOL, a Stable Nitroxide Radical, against Irradiation.  
Kawabata Y, Fukushige T, Indo H P, Matsumoto K, Ueno M, Nakanishi I, Chatatikun M, Klangbud W K, Tangpong S S J, Kanekura T, Majima H J.  
Radiat. Res. 201(2):115-125 (2024.2).
- 18) A giant variant of acquired reactive perforating collagenosis successfully treated with nemolizumab.  
Yamada K, Baba A, Kanekura T.  
J. Eur. Acad..Dermatol. Venereol. Online ahead of print. (2024.2)
- 19) TCR signaling and cellular metabolism regulate the capacity of murine epidermal  $\gamma\delta$  T cells to rapidly produce IL-13 but not IFN- $\gamma$ .  
Ibusuki A, Kawai K, Nitahara-Takeuchi A, Argüello R J, Kanekura T.  
Front. Immunol. 15: 1361139 (2024.2)
- 20) Orexin neurons play contrasting roles in itch and pain neural processing via projecting to the periaqueductal gray.  
Kaneko T, Oura A, Imai Y, Kusumoto-Yoshida I, Kanekura T, Okuno H, Kuwaki T, Kashiwadani H.  
Commun Biol. 7(1): 290 (2024.3)

## 【和文原著】

- 1) 鹿児島:21 世紀のシルクロードは鹿児島・奄美から始まる～大島紬だけじゃない!シルク、蚕の可能性～きずが治る!?!シルクのふしぎなちから  
馬場淳徳  
日本臨床皮膚科医会雑誌 40 (2) : 123-126 (2023.4)
- 2) キノーム解析による HDAC 阻害剤併用療法の新規標的候補分子プロゲステロン受容体の同定  
藤井一恭、野口 玲、吉松有紀、近藤 格、金蔵拓郎  
電気泳動 67 (1) : 23-27 (2023.6)
- 3) 【環状肉芽腫とその類症】 annular elastolytic giant cell granuloma  
松岡温子、東 裕子、馬場直子、藤井一恭、金蔵拓郎  
皮膚病診療 45 (6) : 514-517 (2023.6)

## IV. その他

ナ シ

## V. 学会発表

### 【国際・特別（招請）講演】

ナ シ

### 【国際・一般講演】

ナ シ

### 【国際・教育講演】

- 1) EBV-associated T/NK cell neoplasms in Asia (extranodal NK/T cell lymphoma, hydroa vacciniforme lymphoproliferative disorder and severe mosquito bite allergy).

Fujii K.

25th World Congress of Dermatology

July 3-8, 2023 Singapore

### 【国際・シンポジウム】

ナ シ

### 【国際・ワークショップ】

ナ シ

### 【国際・セミナー】

ナ シ

### 【国際・一般演題】

- 1) SLFN11 is a possible biomarker of sensitivity to DNA-targeted regents in CD30-positive mycosis fungoides and Sezary syndrome.

Shimauchi T, Murai J, Iwasaki M, Phadungsaksawasdi P, Fujii K, Honda T.

International Investigative Dermatology 2023

May 5-13, 2023 Tokyo, Japan

- 2) T-cell receptor signaling and cellular metabolism regulate IL-13-producing capacity of murine epidermal gd T cells.

Ibusuki A, Kawai K, Argu"ello RJ, Kanekura T.

International Investigative Dermatology 2023

May 5-13, 2023 Tokyo, Japan

- 3) Neutrophil-derived microRNAs as severity markers of psoriasis.

Higashi Y, Yamakuchi M, Fukushige T, Hashigushi T, Kanekura T.

International Investigative Dermatology 2023

May 5-13, 2023 Tokyo, Japan

**【国際・その他】**

ナ シ

**【国内・特別（招請）講演】**

ナ シ

**【国内・一般講演】**

- 1) アトピー性皮膚炎での JAK 阻害剤の安全性について  
指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
鹿児島県リンパ腫適正使用講演会

2023 年 11 月 17 日 鹿児島

**【国内・教育講演】**

- 1) 好中球性皮膚疾患に対する 顆粒球吸着除去療法の有効性  
東 裕子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 122 回日本皮膚科学会総会

2023 年 6 月 1～4 日 横浜

- 2) 皮膚リンパ腫の診断 2003  
河井一浩（木戸病院皮膚科）  
第 4 回滋賀皮膚セミナー

2023 年 6 月 17 日 Web 開催

- 3) 皮膚リンパ腫の診断 2003  
河井一浩（木戸病院皮膚科）  
第 2 回山口県リンパ腫学術講演会

2023 年 7 月 15 日 Web 開催

- 4) 皮膚リンパ腫の診断 2023 : What's New and What's Unchanged  
河井一浩（木戸病院皮膚科）  
第 113 回日本皮膚科学会茨木地方会

2023 年 10 月 22 日 水戸

- 5) 皮膚悪性腫瘍の診断までの流れ BPDCN、皮膚リンパ腫を例に  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
社内研修会（日本新薬株式会社）

2024 年 1 月 18 日 Web 配信

- 6) 皮膚科医による ATLL の診療について  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
Web カンファレンス（Meiji Seika ファルマ株式会社）

2024 年 1 月 31 日 Web 開催

- 7) 新時代のアトピー性皮膚炎治療を知ろうー新たな選択肢による寛解維持の時代ー  
馬場淳徳（鹿児島市）

第7回鹿児島県病院薬剤師会学術大会

2024年1月27日 鹿児島

8) アダカラム®の可能性

金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
JIMRO 社内招聘研究会

2024年2月16日 群馬

9) 増える治療選択肢 皮膚アレルギー領域における新規治療薬のまとめ

指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第12回鹿児島アレルギー講習会

2024年2月23日 鹿児島

10) 定年を迎えて「思うこと、感じること」

金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
鹿児島大学医学部定年退職教授最終講義

2024年3月5日 鹿児島

11) アトピー性皮膚炎の病態と治療～鹿児島大学皮膚科の取り組み～

指宿敦子（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
LEO Dermatology WEB Seminar

2024年3月6日 鹿児島

【国内・シンポジウム】

1) 本邦の皮膚リンパ腫の疫学

藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2023年8月4～5日 名古屋

【国内・ワークショップ】

ナ シ

【国内・セミナー】

1) 〈モーニングセミナー〉皮膚T細胞リンパ腫の治療選択

藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会

2023年9月16～17日 沖縄

【国内・一般演題】

1) 令和5年度鹿児島大学大学院医歯学総合研究科感覚器病学講座皮膚科学分野教室の体制

馬場直子（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会

2023年4月9日 鹿児島

- 2) 2022年鹿児島大学病院皮膚科入院患者統計  
川平尚生、吉崎 愛、宮内一成、上塘葉子、大久保葵、松岡温子、山筋好子、久留光博、畠中美帆、馬場直子、指宿敦子、多田浩一、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2023年4月9日 鹿児島
- 3) 2022年鹿児島大学病院皮膚科外来、紹介患者、パッチテスト統計  
松岡温子、吉崎 愛、宮内一成、上塘葉子、大久保葵、川平尚生、山筋好子、久留光博、畠中美帆、馬場直子、指宿敦子、多田浩一、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2023年4月9日 鹿児島
- 4) 二重濾過血漿交換療法を行った水疱性類天疱瘡8例の検討  
宮内一成<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、多田浩一<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>2</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、山田保俊<sup>2</sup>、速見浩士<sup>2</sup>、榎田英樹<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科、<sup>2</sup>同泌尿器科）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2023年4月9日 鹿児島
- 5) 遺伝子検査で確定診断した古典型エーラスダンロス症候群の1例  
馬場淳徳（鹿児島市立病院）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2023年4月9日 鹿児島
- 6) 当科におけるHIV陽性患者のまとめ  
大久保 葵、川平尚生、指宿敦子、馬場直子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎  
（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会・総会  
2023年4月9日 鹿児島
- 7) 顆粒球単球吸着除去療法が著効した乾癬性関節炎  
大久保 葵、指宿敦子、吉崎 愛、宮内一成、馬場直子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科）  
第29回日本アフェレンス学会九州地方会  
2023年4月16日 鹿児島
- 8) 私と電気泳動 皮1/1 皮膚科臨床医の立場から  
藤井一恭（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第74回日本電気泳動学会学術大会  
2023年5月18日～22日 石垣島
- 9) 当院の新型コロナウイルスワクチン接種後に皮膚副反応を呈した症例の検討と本邦報告例のレビュー  
馬場淳徳、山田きよ子、坪内博仁（鹿児島市立病院）  
第122回日本皮膚科学会総会  
2023年6月1～4日 横浜
- 10) 壊死性筋炎に生じた pigmentation  
大久保 葵<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、崎山佑介<sup>2</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、

東 裕子<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同神経内科)  
第 122 回日本皮膚科学会総会

2023 年 6 月 1～4 日 横浜

11) 皮膚生検により診断に至った SMARCA4 欠損腫瘍の 1 例

松岡温子、多田浩一、吉崎 愛、馬場直子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎  
(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 122 回日本皮膚科学会総会

2023 年 6 月 1～4 日 横浜

12) 皮膚生検が診断に有用であった神経核内封入体病の 2 例

川平尚生<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、永田智行<sup>2</sup>、平木 翼<sup>3</sup>、本田裕之<sup>4</sup>、今村研介<sup>5</sup>、中村雅之<sup>5</sup>、  
徳田 真<sup>6</sup>、高嶋 博<sup>6</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>あいらの森ホスピ  
タル精神科、<sup>3</sup>鹿児島予防医学研究所病理部、<sup>4</sup>九州大学神経病理学、<sup>5</sup>鹿児島大学神経  
科精神科、<sup>6</sup>鹿児島大学脳神経内科)  
第 122 回日本皮膚科学会総会

2023 年 6 月 1～4 日 横浜

13) 鹿児島市立病院における抗がん剤以外の薬剤による血管外漏出対応マニュアルの対応

山田きよ子、真方美紀、馬場淳徳 (鹿児島市立病院)  
第 122 回日本皮膚科学会総会

2023 年 6 月 1～4 日 横浜

14) 背部の多発性黄色局面を呈した nodular amyloidosis.

寺尾香菜<sup>1</sup>、河井一浩<sup>2</sup>、武居いづみ<sup>1</sup> (<sup>1</sup>新潟大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>木戸病院)  
日本皮膚科学会新潟地方会第 410 回例会

2023 年 6 月 24 日 新潟

15) 手掌の平滑筋腫を合併した Cowden 病の一例

寺田夏未、東 裕子、指宿敦子、藤井一恭、金蔵拓郎  
(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2023 年 7 月 9 日 鹿児島

16) Orofacial granulomatosis を契機に消化管クローン病の診断が得られた 1 例

米澤理沙子<sup>1</sup>、大久保 葵<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、  
宮内英明<sup>2</sup>、前田将久<sup>3</sup>、田中啓仁<sup>3</sup>、上村修司<sup>3</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>霧島市、<sup>3</sup>同消化器内科)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2023 年 7 月 9 日 鹿児島

17) 脂肪腫と同一部位に生じた多発性脂腺囊腫

吉崎 愛、島田邦彦、寺田夏未、大久保 葵、川平尚生、藤井一恭、東 裕子、  
金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2023 年 7 月 9 日 鹿児島

18) 左前腕に生じた Digital papillary adenocarcinoma の 1 例

野元裕輔<sup>1</sup>、豊島里志<sup>2</sup>、谷本昭英<sup>3</sup>、金蔵拓郎<sup>4</sup> (<sup>1</sup>鹿児島県立大島病院、  
<sup>2</sup>同病理部、<sup>3</sup>鹿児島大学大学院病理部、<sup>4</sup>同皮膚科)

第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2023 年 7 月 9 日 鹿児島

- 19) 小児に発症した後天性表皮水疱症の 1 例  
相良良子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、寺田夏未<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、  
東 裕子<sup>1</sup>、橋口貴樹<sup>2</sup>、古賀浩嗣<sup>3</sup>、石井文人<sup>3</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>南九州市、<sup>3</sup>久留米大)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 20) 生物学的製剤使用中に生じた粟粒結核の 1 例  
宮崎のどか、松岡温子、米澤理沙子、宮内一成、川平尚生、藤井一恭、東 裕子、  
金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 21) 免疫抑制状態の患者に生じた深在性皮膚真菌症の 2 例  
島田邦彦<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、米澤理沙子<sup>1</sup>、宮崎のどか<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、  
藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、水野圭子<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、  
<sup>2</sup>同呼吸器内科)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 22) EGFR 阻害剤による紫斑型薬疹の症例  
有村亜希子 (いまきいれ総合病院)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 23) トリクロロ酢酸と亜鉛華デンプンによる治療が著効を示した肛門部尖圭コンジローマの 1  
例  
宮内一成<sup>1</sup>、山筋好子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、橋口照人<sup>2</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同神経内科)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 24) 菊の接触皮膚炎に対し減感作療法を試みた 1 例  
大久保 葵<sup>1</sup>、島田邦彦<sup>1</sup>、寺田夏未<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、  
藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、玉井真理子<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>鹿児島市)  
第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日 鹿児島
- 25) 当科における小児期発症限局性強皮症患者のまとめ  
吉崎 愛、指宿敦子、大久保 葵、松岡温子、川平尚生、山筋好子、馬場直子、  
藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 47 回日本小児皮膚科学会学術大会  
2023 年 7 月 15 日 大阪
- 26) 皮膚生検により診断に至った SMARCA4 欠損腫瘍の 1 例  
松岡温子、多田浩一、宮内一成、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎

(鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 39 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

2023 年 8 月 4～5 日 名古屋

- 27) 〈研究演題〉皮膚リンパ腫 全国症例数調査の結果 (2022 年版)  
藤井一恭<sup>1,5</sup>、島内隆寿<sup>2,5</sup>、浅井 純<sup>3,5</sup>、藤澤康弘<sup>4,5</sup>、加藤則人<sup>3,5</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>浜松医科大学皮膚科、<sup>3</sup>京都府立医科大学皮膚科、  
<sup>4</sup>愛媛大学皮膚科 <sup>5</sup>皮膚がん予後統計委員会)  
第 39 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会  
2023 年 8 月 4～5 日 名古屋
- 28) デュピルマブ投与後に紅皮症化、白血化した CD8 陽性菌状息肉症  
島田邦彦<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、吉崎 愛<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、大島孝一<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>久留米大学 病理)  
第 39 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会  
2023 年 8 月 4～5 日 名古屋
- 29) 病巣中に多数の脂肪細胞を認めた DFSP の 1 例  
米澤理沙子<sup>1</sup>、大久保 葵<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、米良健太郎<sup>2</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>米良ひふ科クリニック)  
第 39 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会  
2023 年 8 月 4～5 日 名古屋
- 30) イキセキズマブが奏功したアロポー稽留性肢端皮膚炎の 1 例  
寺田夏未<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東裕子<sup>1</sup>、橋口貴樹<sup>2</sup>、  
金蔵拓郎<sup>1</sup> (<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>南九州市)  
第 38 回日本乾癬学会学術大会  
2023 年 8 月 25～26 日 東京
- 31) マクロファージ活性化症候群と後方可逆性脳症症候群を合併した抗 MD45 抗体陽性皮膚  
筋炎の 1 例  
指宿敦子<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、吉崎 愛<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、  
坂元優一郎<sup>2</sup>、市来航史<sup>2</sup>、高木博佑<sup>2</sup>、石塚賢治<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同血液膠原病内科)  
第 153 回日本皮膚科学広島地方会 田中暁生教授就任記念  
2023 年 9 月 2～3 日 広島
- 32) ツンジノスタットが有効であった高齢者成人 T 細胞白血病/リンパ腫  
藤井一恭、大久保 葵、川平尚生、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 141 回日本皮膚科学会山陰地方会 山元 修教授・森田栄伸教授退官及び  
吉田雄一就任記念  
2023 年 9 月 2～3 日 鳥取
- 33) 奄美大島産シルクを用いた医薬品・医療機器の開発  
金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第 4 回高木兼博記念シンポジウム  
2023 年 9 月 8 日 宮崎
- 34) 小児に発症した混合型限局性強皮症の 1 例  
宮崎のどか、指宿敦子、吉崎 愛、大久保 葵、松岡温子、川平尚生、山筋好子、

馬場直子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
日本皮膚科学会第 406 回福岡地方会 産業医科大学皮膚科学 澤田雄宇  
教授就任記念地方会

2023 年 9 月 9～10 日 福岡

35) 棘融解を示した表皮内腫瘍の 3 例

山筋好子<sup>1</sup>、吉崎 愛<sup>1</sup>、大久保 葵<sup>1</sup>、松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、  
指宿敦子<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、多田浩一<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、  
<sup>2</sup>すなお皮ふ科）

第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会

2023 年 9 月 16～17 日 沖縄

36) デュピルマブ投与後に紅皮症化、白血化し、モガムリズマブが奏功した CCR4 陽性 CD  
8 陽性菌状息肉症

藤井一恭、吉崎 愛、馬場直子、大島孝一、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会

2023 年 9 月 16～17 日 沖縄

37) 顆粒球単球着除去療法が著効した乾癬性関節炎の 1 例

吉崎 愛、大久保 葵、宮内一成、馬場直子、指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、  
金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）

第 44 回日本アフェレシス学会学術大会

2023 年 10 月 20～22 日 岩手

38) エンホルツマブ ベドチンによる膿疱型薬疹と考えられた 1 例

相良良子<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、寺田夏未<sup>1</sup>、米澤理沙子<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>、  
見附明彦<sup>2</sup>、松下良介<sup>2</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同泌尿器科）

第 81 回日本皮膚科学会高知地方会～中井浩三教授就任記念～

2023 年 10 月 21～22 日 高知

39) 血管中心性/血管破壊性の細胞浸潤により指趾に潰瘍を形成した成人 T 細胞白血病/リンパ  
腫

寺田夏未<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、霧島茉莉<sup>1</sup>、吉満 誠<sup>3</sup>、橋口貴樹<sup>2</sup>、谷本昭英<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>同病理診断科、<sup>3</sup>同血液・膠原病内科）

第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会

2023 年 11 月 11～12 日 京都

40) 横下腿筋間中隔に波及した左下腿外側皮膚膿瘍。

寺尾香菜<sup>1</sup>、河井一浩<sup>2</sup>、阿部孝洋<sup>2</sup>、鈴木紗也佳<sup>1</sup>、武居いづみ<sup>1</sup>、富山勝博<sup>3</sup>  
（<sup>1</sup>新潟大学大学院皮膚科、<sup>2</sup>木戸病院皮膚科、<sup>3</sup>新潟市）

日本皮膚科学会新潟地方会第 412 回例会

2023 年 12 月 2 日 新潟

41) 蜂窩織炎から菌血症を発症し敗血症性血管炎に至った 1 例

寺田夏未<sup>1</sup>、吉崎 愛<sup>1</sup>、島田邦彦<sup>1</sup>、米澤理沙子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、  
東 裕子<sup>1</sup>、若杉正司<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>出水市）

第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会

2023 年 12 月 3 日 鹿児島

42) 当科における粘液線維肉腫の治療経過のまとめ

米澤理沙子、指宿敦子、島田邦彦、吉崎 愛、川平尚生、馬場直子、藤井一恭、

- 東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 43) 異物による *Lymphocytoma cutis* の 1 例  
相良良子<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、島田邦彦<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、馬場直子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、  
藤井一恭<sup>1</sup>、米良健太郎<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>鹿児島市）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 44) *Symmetrical drug-related intertriginous and flexural exanthema* が疑われた 1 例  
馬場淳徳（鹿児島市立病院）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 45) *Mpox* の 2 例  
宮崎のどか、馬場直子、米澤理沙子、指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎  
（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 46) 抗 TIF1- $\gamma$  抗体陽性皮膚筋炎の経過中に急速進行した悪性腫瘍を合併した 2 例  
島田邦彦、山筋好子、寺田夏未、宮内一成、大久保 葵、馬場直子、  
指宿敦子、藤井一恭、東 裕子、金蔵拓郎（鹿児島大学大学院皮膚科学）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 47) コンポーネント解析を行ったアニサキスアレルギーの 1 例  
馬場淳徳<sup>1</sup>、山田きよ子<sup>1</sup>、山里 佳<sup>2</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島市立病院皮膚科、<sup>2</sup>同臨床研修医）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 48) リパスチジルによる接触皮膚炎の 1 例  
馬場淳徳、山田きよ子（鹿児島市立病院）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 49) いまきいれ総合病院 出向報告  
有村亜希子（いまきいれ総合病院）  
第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日 鹿児島
- 50) 黒色菌糸症を生じた *thymoma-associated multiorgan autoimmunity* の 1 例  
相良良子<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、島田邦彦<sup>1</sup>、宮崎のどか<sup>1</sup>、米澤理沙子<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、  
松岡温子<sup>1</sup>、川平尚生<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、米良健太郎<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
（<sup>1</sup>鹿児島大大学院皮膚科学、<sup>2</sup>鹿児島市）  
第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会  
2023 年 12 月 8 日 千葉

- 51) 落葉状天疱瘡と皮膚筋炎を合併した1例  
島田邦彦、大久保 葵、吉崎 愛、松岡温子、川平尚生、馬場直子、指宿敦子、  
東 裕子、藤井一恭、金蔵拓郎 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会  
2023年12月8日 千葉
- 52) 膿疱性乾癬に対する顆粒球吸着除去療法前後の好中球活性評価  
宮崎のどか<sup>1</sup>、東 裕子<sup>1</sup>、寺田夏未<sup>1</sup>、米澤理沙子<sup>1</sup>、相良良子<sup>1</sup>、宮内一成<sup>1</sup>、  
川平尚生<sup>1</sup>、指宿敦子<sup>1</sup>、福重智子<sup>1</sup>、數村公子<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>浜松ホトニクス(株))  
日本皮膚科学会第408回福岡地方会今福信一教授就任10周年記念  
2024年3月10日 福岡市
- 53) 痒みと痛みの制御における視床下部オレキシン神経の役割  
金子達朗<sup>1</sup>、大浦飛鳥<sup>1</sup>、楠本郁恵<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>2</sup>、奥野浩行<sup>3</sup>、桑木共之<sup>1</sup>、柏谷英樹<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院統合分子生理学、<sup>2</sup>同皮膚科学、<sup>3</sup>同生化学・分子生物学)  
第101回日本生理学会  
2024年3月28~29日 北九州市
- 54) 血管中心性/血管破壊性の細胞浸潤により指趾に腫瘍を形成した成人 T 細胞白血病/リンパ腫  
寺田夏未<sup>1</sup>、藤井一恭<sup>1</sup>、橋口貴樹<sup>2</sup>、金蔵拓郎<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学、<sup>2</sup>南九州市)  
第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2024年3月30日 鹿児島市
- 55) 新規プラスミノーゲン遺伝子異変を認めた遺伝性血管浮腫の新たな一家系  
馬場淳徳<sup>1</sup>、山田きよ子<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>2</sup> (<sup>1</sup>鹿児島市立、<sup>2</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2024年3月30日 鹿児島市
- 56) ネモリズマブが著効した後天性反応性穿孔性膠原線維症 *giant variant* の1例  
山田きよ子<sup>1</sup>、馬場淳徳<sup>1</sup>、金蔵拓郎<sup>2</sup> (<sup>1</sup>鹿児島市立、<sup>2</sup>鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2024年3月30日 鹿児島市
- 57) Primary cutaneous marginal zone lymphoma (PCMZL), IgM+ subtype の1例  
河井一浩 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2024年3月30日 鹿児島市

## 【国内・その他】

- 1) 〈日本皮膚科学会キャリア支援委員会企画：メンター&メンティーの相談会 M&M〉  
モチベーションを高める！「こうすればもっと皮膚科を楽しめる！～振り返って得られた tips～」  
「振り返ってみました..ughhh!」  
東 裕子 (鹿児島大学大学院皮膚科学)  
第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会  
2023年9月16~17日 沖縄

## VI. 社会への貢献（マスメディア等）

### 【テレビ】

ナ シ

### 【ラジオ】

ナ シ

### 【新聞】

ナ シ

### 【その他のメディア】

ナ シ

## VII. 学会・講演会などの開催

### 【学 会】

- 1) 第 193 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
鹿児島大学医学部鶴陵会館（ハイブリッド開催） 2023 年 4 月 9 日
- 2) 第 194 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
城山ホテル鹿児島（ハイブリッド開催） 2023 年 7 月 9 日
- 3) 第 195 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
城山ホテル鹿児島 2023 年 12 月 3 日
- 4) 第 196 回日本皮膚科学会鹿児島地方会  
城山ホテル鹿児島 2024 年 3 月 30～31 日

### 【学術講演会】

- 1) 山崎文和（関西医科大学 皮膚科学講座准教授）  
「投薬を見合わせちゃったイルミアのミドコイをみてみもんそ」  
～『投薬を見合わせていたイルミアの見どころをしてみよう』～  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 4 月 9 日
- 2) 深澤毅倫（東京大学大学院医学系研究科 臨床カンナビノイド学講座 特任講師）  
「乾癬性関節炎の早期発見・早期治療における後爪郭毛細血管異常・爪病変の意義」  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 7 月 9 日
- 3) 藤田英樹（日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 主任教授）  
『なぜTYK2か？』  
～乾癬の新しい治療薬の謎に迫る 長期処方解禁編～  
（共催）日本皮膚科学会鹿児島地方会  
2023 年 12 月 3 日

## VIII. 学会活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 日本研究皮膚科学会（理事）
- ・ 鹿児島膠原病研究会（世話人）
- ・ 日本皮膚科学会（雑誌委員・西部支部運営委員会・代議員・西部支部学術委員）
- ・ 米国研究皮膚科学会
- ・ 日本生化学会
- ・ 日本免疫学会
- ・ 日本癌学会
- ・ 日本アレルギー学会
- ・ 日本リウマチ学会
- ・ 日本形成外科学会九州地方会
- ・ 日本リンパ網内系学会
- ・ 日本熱傷学会九州地方会
- ・ 鹿児島異種移植研究会（世話人）
- ・ 日本乾癬学会（理事）
- ・ 日本アフェレシス学会（評議員）
- ・ 鹿児島アレルギー懇話会（世話人）
- ・ 皮膚脈管・膠原病研究会（世話人）
- ・ 南九州腫瘍研究会（世話人）
- ・ 日本皮膚悪性腫瘍学会（理事）
- ・ 鹿児島県性感染症研究会（世話人）
- ・ 鹿児島地区皮膚疾患病態治療研究会（代表世話人）
- ・ 鹿児島皮膚アレルギー研究会（代表世話人）
- ・ 鹿児島皮膚疾患の治療を語る会（代表世話人）
- ・ 鹿児島救急医学会（評議員）
- ・ The Open Dermatology Journal, Editorial Board Member
- ・ 第10回日中合同皮膚科学術会議組織委員
- ・ 表皮細胞研究会（監事）
- ・ 日本褥瘡学会九州地方会（世話人）
- ・ 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会（評議員）
- ・ Journal of Dermatological Science, Editorial Board
- ・ 日本皮膚科学会膿疱性乾癬診療ガイドライン改定委員会委員
- ・ 日本アフェレシス学会雑誌編集委員
- ・ 日本研究皮膚科学会推薦委員
- ・ 第18回国際ヒトレトロウイルス HTLV 会議組織委員
- ・ IID2018 Abstract Review
- ・ 日本皮膚免疫アレルギー学会 学術教育委員

### <東 裕子>

- ・ 日本皮膚科学会西部支部（代議員）
- ・ 日本研究皮膚科学会（評議員・ダイバーシティ委員会委員）
- ・ 働き方改革 WG 医員（日本皮膚科学会）
- ・ C-2 水準審査委員（日本皮膚科学会）

### <藤井一恭>

- ・ 日本研究皮膚科学会（評議員）

- ・九州真菌懇話会（施設幹事）
- ・日本電気泳動学会（評議員）
- ・皮膚悪性腫瘍学会（評議員・皮膚がん予後統計委員会委員）
- ・日本癌治療学会・協力委員
- ・皮膚悪性腫瘍学会（皮膚リンパ腫ガイドライングループ委員）
- ・日本皮膚悪性腫瘍学会『皮膚がん取扱規約』制作委員
- ・ISID 2023 Tokyo Satellite Meeting International Symposium on Cutaneous Lymphoma オーガナイザー
- ・第8回皮膚リンパ腫症例検討会 臨床コメンテーター

#### <河井一浩>

- ・日本皮膚科学会
- ・日本研究皮膚科学会（評議員）
- ・日本皮膚悪性腫瘍学会（評議員）
- ・日本免疫学会
- ・The Society for Investigative Dermatology
- ・International Society for Cutaneous Lymphomas
- ・日本臨床皮膚科医会
- ・The American Association of Immunologists
- ・日本皮膚免疫アレルギー学会（代議員）
- ・J.Dermatol. (Section Editor)

## IX. Journal Review

<金蔵拓郎>

- Open Dermatol. J. / Genes to Cell / Ther. Apher. Dial.

<東 裕子>

- J. Dermatol. (12 編) • J. Dermatol. Sci.

<藤井一恭>

- Hematological Oncology / J. Dermatol. (5 編) / Eur. J. Dermatol. / JEADV Clinical Practice

<河井一浩>

- J. Cutan. Immunol. Allergy (2 編) / J. Dermatol. (36 編)

## X. 学内活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 医学部共同利用研究棟運営委員
- ・ 教員の評価に関する制度検討委員会委員
- ・ 研究フォーラム・インフォメーションオフィスメンバー
- ・ セカンドオピニオン外来担当医
- ・ 卒後臨床研修部研修管理委員会委員
- ・ 感覚器センター長
- ・ 大学院修士課程主査1件 副査1件

## XI. 学生講義

### <金蔵拓郎>

- ・【医学部】[膠原病の皮膚症状 (2023.4.6 : M4) ]
- ・【医学部】[炎症性皮膚疾患 (2023.7.24 : M3) ]
- ・【宮崎大学講義】[皮膚症状から診る膠原病 (2024.1.22 : M3) ]

### <東 裕子>

- ・【共通教育】[皮膚のがん (2023.4.27) ]
- ・【医学部】[総合講義 (2023.7.19 : M6) ]
- ・【医学部】[水疱症、角化症 (2023.7.20 : M3) ]
- ・【医学部】[感染症 (2024.1.17 : M3) ]

### <藤井一恭>

- ・【医学部】[皮膚悪性腫瘍 (2023.7.26 : M3) ]
- ・【医学部】[皮膚の悪性リンパ腫 (2023.12.22 : M4) ]

### <指宿敦子>

- ・【歯学部】[皮膚の構造・機能 先天性疾患 (2023.5.15 : M5) ]
- ・【医学部】[発疹学・検査 (2023.7.19 : M3) ]

### <馬場直子>

- ・【歯学部】[腫瘍性疾患 (2023.6.12 : M5) ]
- ・【医学部】[皮膚の構造・機能 (2023.7.18 : M3) ]
- ・【看護】[総論 (2023.11.14 : M2) ]
- ・【看護】[各論(II) (2023.11.28 : M2) ]

### <山筋好子>

- ・【歯学部】[アレルギー疾患、皮膚テスト (2023.5.22 : M5) ]
- ・【医学部】[縫合実習手技 (2023.8.30 : M4) ]
- ・OSCE (2023.9.18)
- ・OSCE (2023.9.20AM)
- ・【医学部】[発生・発達チュートリアル (2023.12.8 : M4) ]

### <川平尚生>

- ・【歯学部】[膠原病、感染症 (2023.6.5 : M5) ]
- ・OSCE (2023.9.15)
- ・OSCE (2023.9.20PM)

### <松岡温子>

- ・【歯学部】[水疱症、好中球性疾患 (2023.5.29 : M5) ]
- ・【医学部】[母斑、母斑症、血管腫、皮膚良性腫瘍 (2023.7.20 : M3) ]

### <寺田夏未>

- ・【野田女子高等学校】[成人看護学-皮膚（前半）（2023.5.25：M2）]

<相良良子>

- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 1/3（2023.6.15：M2）]

<島田邦彦>

- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 2/3（2023.6.22：M2）]
- ・【医学部】[発生・発達チュートリアル（24.12.12：M4）]
- ・【医学部】[感染症チュートリアル（2024.1.15：M3）]
- ・【医学部】[感染症チュートリアル（2024.1.22：M3）]

<宮崎のどか>

- ・【野田女子高等学校】[成人看護学-皮膚（後半）（2023.6.1：M2）]
- ・【医学部】[縫合実習手技（2023.8.30：M4）]

<米澤理沙子>

- ・【鹿児島医療技術専門学校】[皮膚科全般 3/3（2023.6.29：M2）]

<河井一浩>

- ・【医学部】[湿疹・皮膚炎（2023.7.24：M3）]

## XII. 社会活動

### <金蔵拓郎>

- ・ 鹿児島県感染症発生動向調査企画委員
- ・ 鹿児島県特定疾患認定委員
- ・ 最高裁判所専門委員
- ・ 鹿児島県 ATL 制圧委員会研究推進部会委員
- ・ 大阪地方裁判所損害賠償請求事件鑑定人
- ・ 本格焼酎部会会員
- ・ 焼酎発酵副産物研究会会員
- ・ 福岡地方裁判所平成 19 年（ワ）第 309 号 損害賠償請求事件専門委員
- ・ 鹿児島県医師会評議員
- ・ 財団法人親和会評議員
- ・ 鹿児島大学医学部創立 70 周年・西洋医学開講 150 周年記念事業実行委員長
- ・ カネミ油症検診
- ・ 鹿児島大学医学部医師会理事
- ・ 鹿児島県アレルギー疾患医療連絡協議会委員

### XIII. 文部省科学省科学研究費等取得

- 1) 『CD147/basigin を標的とした乾癬の新規治療の開発』  
金蔵拓郎（代表）基盤研究（C）：403 万円
- 2) 『バイオフィルムに対するシルク由来タンパク質（セシリン）の機能性研究』  
金蔵拓郎 共同研究
- 3) 『低密度好中球(LDN)の miRNA を治療標的とした好中球性皮膚症の病態解明』  
東 裕子（代表）基盤研究（C）：429 万円
- 4) 『自己炎症性好中球性皮膚症の分子病態学的解明』  
東 裕子（代表）レオファーマ助成金：100 万円

### XIV. 特 許

- 1) 『瘙癢治療剤』  
金蔵拓郎 出願番号：2019-157118 出願日：2019年8月29日  
特許登録 2023年11月9日

### XV. 受 賞

ナ シ

### XVI. 学位取得者

- 1) 『Prevention of non-infectious pulmonary complications after intra-bone marrow stem cell transplantation in mice.』  
(マウスモデルにおいて骨髄内骨髄移植は移植後肺合併症の発症を予防する)  
PLOS ONE 17(9): e0273749 (2022)  
山筋好子：総研第 705 号 博士（医学）[令和 5 年 7 月 19 日授与]

### XVII. 専門医取得者

川平尚生 野元 裕輔

## XVIII. 教室員の動向

【教 授】 金蔵拓郎

【准 教 授】 東 裕子

【診療准教授】 藤井一恭

【講 師】 指宿敦子

【助 教】 馬場直子 山筋好子 川平尚生  
松岡温子 (2023.8 迄)

【医 員】 大久保 葵 (2023.12.2 迄) 宮内一成 吉崎 愛  
寺田夏未 相良良子 島田邦彦  
宮崎のどか 米澤理沙子 (2024.2.16 迄)

【大学院生】 山筋好子 (2023.7 迄) 野元裕輔

【部内研究生】 な し

【部外研究生】 寺崎祐太郎

【研修登録医】 な し

【客員研究員】 河井一浩

【医 局 長】 馬場直子

【病棟医長】 川平尚生

【外来医長】 指宿敦子

【出 向 者】 有村亜希子：いまきいれ病院 三好逸男：キラメキラス ヘルスケアホスピタル  
馬場淳徳：鹿児島市立病院 山田きよ子：鹿児島市立病院  
野元裕輔：鹿児島県立大島病院

【外国留学】 な し

【国内留学】 な し

【外国人留学生】 な し

【外国人帰国者】 な し

【退局者】 松岡温子 (2023.8迄)

【退職者】

【新規就職者】 寺田夏未                      相良良子                      島田邦彦  
宮崎のどか                      米澤理沙子

【出産・育児休暇・休職】 大久保 葵 (2023.12.4～) 米澤理沙子 (2024.2.19～)